

第3章 河川整備計画の目標

第1節 河川整備の基本理念

「加賀平野を潤し、白山の豊かな恵みを未来につなぐ“母なる手取川”」を河川整備の基本理念とし、下記の項目を基本に手取川の川づくりを実践する。

●安全、安心な『かわづくり』

急流河川である手取川での洪水氾濫から流域住民の生命と財産を守るため、住民参加による安全で安心な『かわづくり』を目指す。

●白山と手取川の恵みを伝える『ふるさとづくり』

清流手取川がもたらす恩恵を守り継承する『かわづくり』を通じて、魅力と活力のある『ふるさとづくり』を目指す。

●手取川を心の郷里とする『ひとづくり』

サケやアユに代表される優れた自然を保全しつつ、地域の文化を踏まえた魅力ある河川空間の整備や、川を中心としたネットワーク等の構築を通じて、歴史、文化、先人の知恵、技術の伝承を目指す。

第2節 計画の対象区間

本整備計画の対象区間は、表4及び図57に示す大臣管理区間とする。

表4 手取川水系大臣管理区間

河川名	区間		延長 (km)
	上流端	下流端	
手取川	石川県白山市広瀬町ルの部十番の二地先 <small>はくさんごうぐちえんてい</small> 先の白山合口堰堤	海に至るまで	17.3
手取川	(左岸) 石川県白山市白峰二十二番二地先 (右岸) 同市白峰式八号三十番九地先	(左岸) 石川県白山市東二〇一番二百一十地先 (右岸) 同市女原ラー一番七地先	13.0
<small>しもたわら</small> 下田原川	(左岸) 石川県白山市鴉ヶ谷ヨ八番四地先 (右岸) 同市鴉ヶ谷カ十三番十七地先	手取川への合流点	7.0
<small>あかだに</small> 赤谷川	(左岸) 石川県白山市桑島参号百五十七地先 (右岸) 同市桑島百五番十四地先	手取川への合流点	
<small>おおみちだに</small> 大道谷川	(左岸) 石川県白山市白峰リ十九番五地先 (右岸) 同市白峰チ七十番四地先	手取川への合流点	



図57 手取川水系大臣管理区間

第3節 計画の対象期間

本整備計画は、手取川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は、概ね30年間とする。

なお、本計画は、現時点での社会経済状況、自然環境状況、河道状況等を前提として策定したものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見、技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直しを行う。

第4節 洪水による災害の防止又は軽減に関する目標

【流下能力の向上】

手取川の洪水氾濫から沿川地域を防御するため、手取川水系河川整備基本方針で定めた計画高水流量（鶴来地点：5,000m³/s）を堤防設計水位（H.W.L）以下で流下させ、氾濫被害の防止を図る。

【急流河川の特徴を踏まえた堤防強化】

急流河川であることを踏まえ洪水特有の強いエネルギーに対する堤防の安全性を確保するため、特に危険な区間について質的整備を進め、氾濫被害の防止を図る。

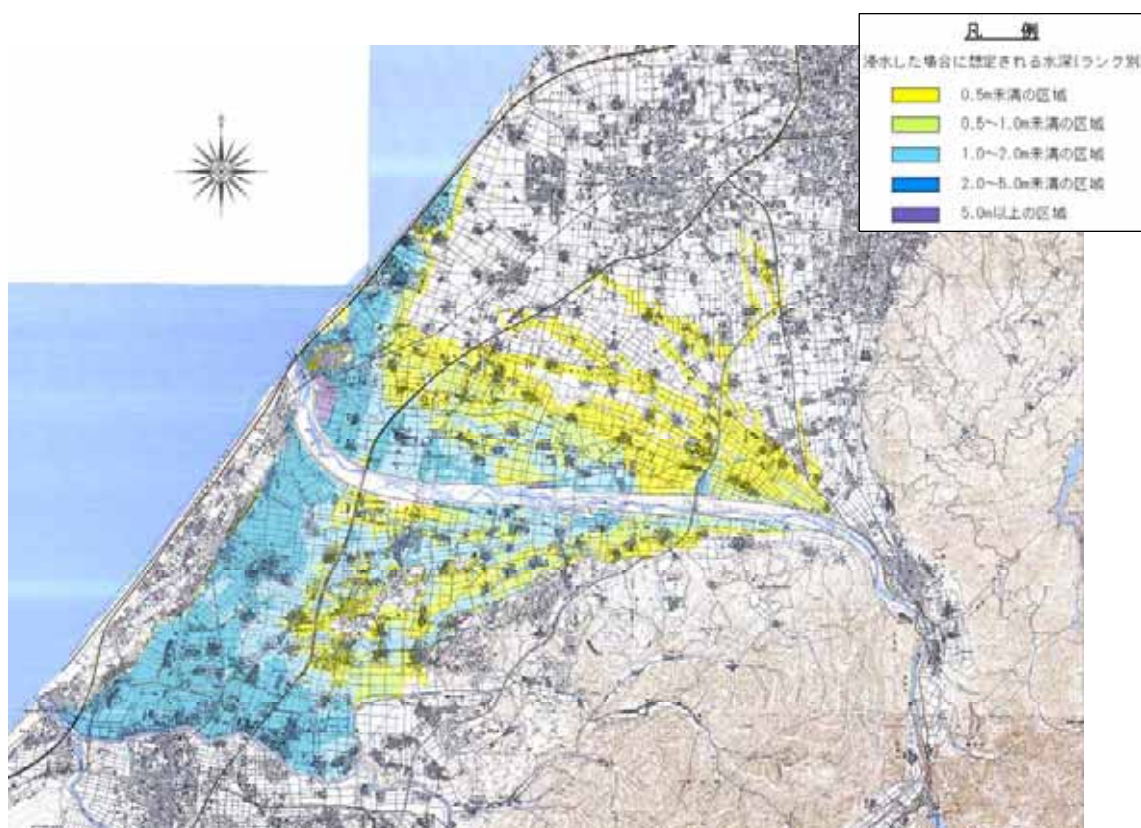


図 58 ※ 特に危険な区間での堤防の決壊を想定した場合の氾濫域（平成 16 年度末時点）

※ 特に危険な区間とは、平成 15 年の河道地形と H16 年度末時点の施設整備状況をもとに、想定される深掘れや侵食により堤防が決壊する危険性が特に高い区間。

注：浸水想定区域の計算条件

- (1) この氾濫域は、特に危険な区間で洪水はん濫した場合の氾濫域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を示したものである。
- (2) この氾濫域は、現在の手取川の河道整備状況、手取川ダムや大日川ダム等の洪水調節施設の状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね 100 年に 1 回程度起こる大雨が降ったことにより、手取川がはん濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものである。なお、降雨状況により浸水想定区域と水深が異なることがある。
- (3) また手取川沿川は地形勾配が急な扇状地であるため、はん濫水は土砂を多く含み勢い良く住宅地や農地を流れ下るといった特徴がある。この図はその洪水が流れ下る可能性のある区域を示したものである。なお、下流域においては、一時的に洪水が深く溜まることもある。
- (4) この氾濫域は、特に危険な区間で堤防が決壊した場合等を想定した一定の条件におけるシミュレーションを行い、これを重ね合わせて最大の水深、最大の範囲を示したものである。
- (5) このシミュレーションの実施に当たっては、熊田川、北川等の支派川や隣接する梯川のはん濫、想定を越える降雨、高潮、内水によるはん濫（雨水が河川に排水できなく生じる浸水被害）等を考慮していないので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がある。
- (6) なお、手取川左岸下流部については、隣接する梯川の氾濫の影響が考えられるので、別途、梯川氾濫域を参照する必要がある。
- (7) 計算の前提となる計画降雨 手取川流域の 1 日間総雨量 316mm
- (8) その他計算条件
 - ①氾濫計算は、対象区域を 50m 格子（計算メッシュという）に分割してこれを 1 単位として計算している。
 - ②計算メッシュの地盤高は 1/2,500 都市計画図から求めた平均地盤高を使用している。このため、微地形による影響があらわしていない場合がある。
 - ③連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については、氾濫水を左右することから計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っている。

【氾濫被害の軽減】

また、河川の増水や堤防が決壊した場合の氾濫域の拡大が急激であることを踏まえて、ハード整備に加え、的確な防災情報の提供や防災施設の機能の適正な維持管理等のソフト対策を災害対策の重要な柱として展開することにより、被害を最小化する『減災』を図る。

第5節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

【流況の改善】

河川及び流域における諸調査等を踏まえ、手取川において流水の正常な機能を維持するために必要な水量を明らかにし、その水量の確保に努める。

減水区間については、引き続き発電等関係水利使用者と改善に向けて調整に努める。

【良好な水質の維持】

手取川の水利用及び河川利用の現状を踏まえ、当面の目標水質を環境基準（表5）とし、引き続き継続的なモニタリングの実施を行い、関係機関と連携して良好な水質の維持に努める。

また、手取川に相応しい新しい水質指標を定め、その水質の維持に努める。

表5 環境基準類型指定状況（昭和50年3月28日石川県告示）

水域の区分	類型	達成期間	環境基準点	目標水質
手取川上流 （風嵐谷川が合流する地点から上流）	AA	直ちに達成	風嵐堰堤	BOD 1mg/l
手取川中流 （風嵐谷川が合流する地点から手取川橋まで）	A	直ちに達成	白山合口堰堤	BOD 2mg/l
手取川下流 （手取川橋より下流）	B	直ちに達成	美川大橋	BOD 3mg/l

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

【多様な生物の生息・生育環境の保全】

手取川扇状地の特性を踏まえ、バランスのとれた河川環境の保全が図られるよう配慮しつつ、石川県の名の由来となった手取川の原風景である石の河原の復元に向け取り組む。

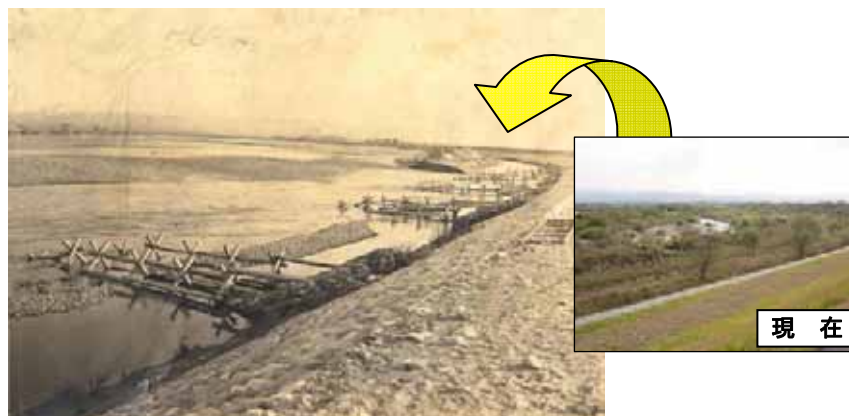


図 59 石の河原

(昭和 17 年 白山市湊町付近 左岸 1.3k 付近)

手取川の代表魚種であるサケ、アユ等の魚類が、自由に遡上、降下できるよう魚がのぼりやすい川づくりに努めるとともに、関係機関と連携して、濁質分の流出による生態系への影響の軽減に努めるなど、魚類をはじめとする水生生物の生息環境の改善に努める。

多様な河川環境の保全のためには、適切な植生管理、健全な流況が必要であることを念頭に置き、総合的な流水管理に努める。

【適正かつ多様な河川利用の推進】

河川環境の整備については、豊かな自然環境を活かし、地域の歴史、文化等の特徴も踏まえ、交流、潤いと安らぎ、自然学習、自然とのふれあいの場として、誰でも安心して河川空間に親しめる川づくりを、関係機関や地域住民と一体となって取り組む。